

## 第5学年 音楽科 学習指導案

音楽教育専修 藤原美奈

### 1. 単元名

『赤とんぼ』 詩と音楽を味わおう

### 2. 単元の目標

○表したい音楽表現をするために必要な歌唱の技能を、友達と交流しながら高め合う。(知識及び技能)

○作詞者の歌詞に込めた思いを知り、作曲家がその思いを音楽でどのように表しているか考え、歌うことで表現する。(思考力、判断力、表現力)

○赤とんぼの景観を知り、それを詩、音楽で表現する楽しさを味わい、主体的に田んぼを次世代に残そうとする思いをもつ。(学びに向かう力、人間性)

### 3. 評価規準

ア知識・技能	イ思考力・判断力・表現力	ウ主体的に学習に取り組む態度
①赤とんぼの曲の背景について理解し、情景を想像することができる。 ②曲の雰囲気を生かした表現で歌っている。	①赤とんぼの景観の変化について考えることができる。 ②歌詞の表す情景を想像したり、旋律のまとまりやリズムの特徴を感じ取ったりしながら表現を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	①情景を想像したり、旋律を生かして歌ったりすることに興味・関心をもち、歌唱の学習に主体的に取り組もうとしている。

### 4. 単元について

#### (1) 教材観

「赤とんぼ」は、三木露風の作詞、山田耕筰の作曲による、日本の代表的な童謡の一つである。三木が1921年(大正10年)に、故郷である兵庫県揖保郡龍野町(現在のたつの市)で過ごした子供の頃の郷愁から作ったといわれ、夕暮れ時に赤とんぼを見て、昔を懐かしく思い出すという、郷愁にあふれた歌詞である。しかし現在、全国的にトンボが減少している。減少の原因について、研究者の間では「アキアカネを育ててきた水田が繁殖に適さない環境になっているからではないか」と指摘されることが多い。湿地を好むアキアカネが卵を産み付ける冬場に、農業機械を入れやすくするための乾田化が行われたり、休耕田の増加で荒れ

地が増えたりしているのは、その一端だ。また、除草剤など既存の農薬には一定の耐性を示していた幼虫（ヤゴ）が、別の害虫駆除用に開発された新しい農薬の作用を受けやすいとする公的機関の報告もある。「全国トンボ市民サミット」（事務局・静岡県磐田市）では、このままでは日本の秋の風景や文化が失われてしまうだろう、と危機感を募らせている。「赤とんぼ」を歌い、赤とんぼの歌の良さに気づくとともに、昔の風情ある景観を思い浮かべることで、自分たちが赤とんぼの生息できる自然を守り、日本の文化と伝統を大切に引き継いでいこうとする思いを育てることができる。

## (2)児童観

本学年の児童は、自然が豊かな地域で育ち、校外学習などでも多く自然と関わってきた。そのため、自然が身近にあることが当たり前と感じ、ありがたみを持っていない児童も多々いる。また、積極的な児童が多く、歌声は大きく元気よく歌うことができる。しかし、音楽的に歌うことは難しい。

## (3)指導観

ある年齢より上の日本人は「赤とんぼ」に関して、郷愁を共有しているのも、それが何歳ぐらいまでの方が共有しているのかを、地域の人たちにアンケート調査をして、日本の環境変化のタイミングを調べる。その上で赤とんぼを歌うことで、赤とんぼが飛んでいる昔の風景を想像し、現代どんどん減っている赤とんぼを守ろう、赤とんぼで歌われている景観を次世代に残していこうという思いをもたせる。

## (4)ESD との関連

### ・学習を通して主に養いたい ESD の視点

【相互性】：人間の生活と赤とんぼの命が関係してことに気付くことができる。

【有限性】：自然も伝統文化も次世代につないでいこうとする努力をしなければ途絶えてしまうことに気付くことができる。

【公平性】：今さえ良ければいいのではなく、次世代も安心して豊かに暮らせる未来を創る大切さに気付くことができる。

### ・学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力

長期的思考力…次世代に自然や伝統文化を残すために、自分たちにできることについて考えることができる。

### ・主に関連する ESD の価値観

自然環境・生態系の保全を重視

赤とんぼの曲の良さを感じ、次世代にもその感動を伝えられるように生態系を守る。

人権・文化を尊重する

次世代に、赤とんぼのような日本歌曲が途切れないように伝える。

主に関連する SDGs の目標

目標 11 「赤とんぼの住める街を守る。」

目標 15 「赤とんぼが住むための自然を守る。」

5.単元展開の概要（全 5 時間）

主な学習活動	学習への支援	◇評価・備考
<p>1. 赤とんぼを聴く</p> <p>2. 赤とんぼの音取りをして、歌う。</p> <p>3. 作詞者、作者について学ぶ</p> <p>4. 赤とんぼの歌詞が表している情景について考える</p> <p>5. 当時の情景がどのようなものなのか実感を持つために、地域の方々にお話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤とんぼのイメージ</li> <li>・赤とんぼの思い出</li> <li>・桑畑とは何か</li> <li>・風景画や地域の昔の写真を見せてもらう</li> </ul> <p>6. 地域の方々のお話しからわかった景観の変化について、班で話し合いながらまとめる。</p> <p>7. 赤とんぼを守るために自分たちに何ができるかについて話し合いなが</p>	<p>○最後に老人ホームで発表会をすることを告げ、目的意識を持たせる。</p> <p>○時代背景について、当時と今とは違うことを感じさせる。</p> <p>○どのような思いで作詞、作曲をしたのかについて知る</p> <p>○言葉を絞って考えさせる。</p> <p>○幅広い年代の人にお話をしてもらう。</p> <p>○全員が話し合いに参加できるように、司会や書記などの役割分担をする。</p>	<p>ウ①</p> <p>ア①</p> <p>イ①</p>

<p>らまとめる。</p> <p>8. 班ごとに発表する。</p> <p>9. もう一度赤とんぼを歌う。</p> <p>10. ほかの日本歌曲を歌う。</p> <p>11. 老人ホームで発表会を行う。</p>	<p>○情景を思い描きながら歌う。</p> <p>○どのように歌うと、その情景をより表現できるか考える。</p> <p>○他の歌でもこの取り組みができることに気付かせる。</p>	<p>ア②</p> <p>イ②</p>
--	---	---------------------